

中国人強制連行・強制労働の歴史に学ぶ

NPO 法人ひかり 河本 泰治

12月12日(日)、安芸太田町坪野にある中国電力安野発電所とその周辺の中国人収容所の跡地へのフィールドワークで、中国人強制連行・中国人被爆の歴史について学びました。川原洋子さん(広島安野・中国人被害者を追悼し歴史事実を継承する会)から現地でお話を伺いました。



戦争末期、労働力不足を補うため、日本政府と企業は朝鮮人や中国人を強制連行しました。「強制連行」ではなく「勞工」として自由意志で行くと偽装され日本に連れてこられました。

約8kmの導水トンネル工事や、発電所の基礎工事は苛酷な労働環境で行われました。雪の中も裸足で歩き、満足な食事も与えられず、働けなくなると食事を減らされました。

帰国までの約1年間に112人が負傷、269人が病気にかかり、29人が死亡。日本政府が強制連行を公式に認め遺憾の意を表明したのは、1994年6月、戦後49年目のことでした。



発電所工事を請け負った西松建設との和解後、企業と被害者・遺族が共同で建立した「安野中国人受難之碑」には、強制連行された360人の名前とともに、「歴史を心に刻み、日中両国の子々孫々の友好を願う」という言葉が刻まれています。

強制連行・強制労働の事実から学ぶことの重さを感じた一日でした。

NPO ひかり

理事長 齋尾 和望

2015年1月に立ち上げたNPO ひかりは、環境・人権・教育・平和等をテーマとした事業を行い、地域に貢献することを目的としております。この方針をもとに、年1回の講演もしくはコンサート、フィールドワークを取り組んできております。

これまで、教育講演会、人権講演会、猿回しの公演、和太鼓とジャズのコラボなどの文化・芸術的行事、加えて、伊方原発、上関原発予定地、長島愛生園、岩国基地のフィールドワーク等、現地を訪問して当時者から直接学ぶという取り組みをしてきました。

この度、コロナ禍の中でなかなかイベントが行いにくい中でしたが、川原洋子さんのご好意を受け、課題としていた中国人強制労働により作られた安野発電所のフィールドワークを実施することが出来ました。

コロナ禍ということもあり参加者は14人となりましたが、大変有意義な学習をすることができました。

私自身は毎年慰霊祭に参加してまいりましたが、強制収容所跡には初めて行き、改めて過酷な労働環境であったことを知りました。今回の学習を生かして、NPOとしてさらに努力して参りたいと思っています。